

# International College of Surgeons Japan Section



2008(平成20年)

## 国際外科学会日本部会ニュース

一般外科 消化器外科 心臓血管外科 胸部外科 産婦人科 整形外科 泌尿器科  
脳神経外科 頭頸部外科 形成外科 小児外科 耳鼻咽喉科 眼科 皮膚科 口腔外科 麻酔科等  
「すべてメスを持つ者」の会

### CONTENTS

#### \* 会長挨拶

#### 日本部会関連

#### 1. 第54回日本部会総会

(1) 総会の様子

(2) 演題発表総括

(3) 議事録報告

(4) 会計報告

(5) "2007 Hall of Fame" および

2008年度"The Young Investigator Award"受賞者

(6) ICSスカラーシップについて

#### 2. 第55回国際外科学会日本部会総会のご案内

#### 3. 日本部会役員・各種委員会(2007-2008)

#### 4. 日本部会定款

#### 5. 事務局からのお知らせ

#### シカゴ本部関連

#### 1. 第36回世界総会

2. 北京(中国)にてICS World Congress,  
Asia-Pacific Joint Congress 開催決定

#### 3. シカゴ本部役員

## ご挨拶

日本部会 会長 高崎 健



本年度の日本部会総会は獨協医科大学第一外科、砂川正勝教授のもとで開催され、新しい企画も含め盛会裡に終了したことをうれしく思っております。今回は14th Czech-Japan Surgical Symposium(総会会長 藤田保健衛生大学 前田耕太郎教授)と共同開催という形で行われ、更に内容が深まったと感じており、今後の方向性を示していただいたと思っております。砂川教授に会員を代表して御礼申し上げます。

学会本部の活動として本年は世界総会が12月にウィーンで開催されます。

本年から集会の企画運営をシカゴ本部がマネージすることになり、学会運営者に委託することになっています。これまでは集会会長に大きな負担がかかりすぎるとい反省から、このようなやり方が試される訳ですが、一部混乱が起こる可能性も心配されます。今回の集会の良否で今後の学会運営の方向性が決まるという意味では大切な集会であると思っております。日本からも演題発表、司会などで多くの方が出席して下さる予定となっており、深く感謝致します。また来年にはICS World Congress, Asia-Pacific Joint congress, November 13-16, 2009の開催が決まりました。Asian Federationの一員として日本部会の先生方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

国際外科学会日本部会は多くの加盟国の中で米国と並んでしっかりとした組織を持っている国として評価されています。現在の国際外科の組織を支える大きな役割が期待されています。また日本部会の支援により国際外科博物館は整備に弾みが付き、企業からの援助も増え内容が充実して来ております。

しかしながら昨年来、日本部会の理事幹事会では本部の財務経理が不明瞭である点が指摘されて来ており、何度か本部に対して細かな報告を求めて参りましたが明確な回答は遅れていました。最近ようやく不十分ではありますが概略の報告書が届いております。

国際外科学会は発足当初より、先進国による発展途上国への外科医療の支援が大きな役割の一つと考えられていたため、国ごとに会費の値に差がつけられており、これが現在でも踏襲されて来ています。その詳細に関しては公表されておませんが、現状には沿わない部分も多くあるものと考えられます。そこで日本部会としてはFellow会費を均一にすべきと主張していますが、抵抗が多くあります。しかしながら徐々にではありますが財務立て直しのための改革が行われて来ております。次期会長予定のDr. Chenは本格的な改革を行う意欲を持っています。日本部会の支援がなければ学会本部が立ち行かなくなることは明らかな状態であります。今後ともご協力をお願い申し上げます。

## 日本部会関連

# 1. 第54回日本部会総会

### (1) 総会の様子

第54回国際外科学会日本部会総会は6月7日、総会会長・獨協医科大学第一外科の砂川正勝教授のもと、京王プラザホテル(東京)にて開催されました。今回は56の演題が集まり、またThe 14th Czech-Japan Surgical Symposium(会長藤田保健衛生大学教授 前田耕太郎先生)との合同開催ということで、盛況のうちに総会を終えることができました。

各演題発表後には、例年ご好評をいただいております、東京医科大学国際情報センター教授、J. P. Barron先生、東京医科大学医学英語担当助教授、Raoul Breugelmans先生による指導も行われました。

また、前日には役員による事務会議が開かれました。夜には獨協医科大学の総会事務局の皆様方のご企画で懇親会が開催され、ポップス尺八奏者の昌平さんの素晴らしい音色を聞きながら、チェコの先生方ともなごやかながらも活発な意見交流の場となりました。



高崎会長より砂川総会会長へ感謝状とメダル贈呈



昌平さんの尺八をBGMに歓談のひとつき

### (2) 演題発表総括

英語コメンテーターの先生方より、演題発表について総括していただきました。

Meeting of the Japan Chapter of the International College of Surgeons, June 7, 2008

**J. Patrick Barron, Raoul Breugelmans**

International Medical Communications Center, Tokyo Medical University

It is an honor to have the opportunity to express our opinions concerning the annual scientific meetings of the Japan Chapter of the International College of Surgeons.

For several years we have had the opportunity to comment on all the oral presentations made at the annual

meetings. Each presentation lasts about 7 minutes then we have an opportunity of two minutes for a comment on the style of the presentation, then the Chairperson chairs the discussion for about 2-3 minutes.

Since there are too many presentations to be given in a single room, one of the authors is in one room, while the other is in another. We grade the presentations on the basis of 4 categories: the quality of the audiovisual aids; oral delivery, including fluency and clarity in English as well as the ability to look at the audience and engage them visually; ease of understanding; and the abstract.. Each of these 4 categories is graded with a maximum of 25 points each.



Over the years there has been a definite increase in the quality of the oral presentations, especially regarding spoken English. The structure of the talks has always been good. However, there still are problems.

The two main problems are the inability to speak directly to the audience, without reading notes, and the English of the audiovisual materials.

Some presenters put large amounts of material in text on the screen and read from that. However, that is a very poor way of communicating because most of the audience can read faster than the presenter can talk. One way to overcome this problem is, when speaking, to change the order of the words, so that the audience cannot “get ahead” of the presenter. However, it is better to use “bullet points”, and to speak from them. This requires practice, but it is much more natural than reading from a paragraph of text on a slide.

Most of the mistakes in the English of the audiovisual material concerns very simple level problems. Some of these are “70-years old male” instead of “70-year-old man”, “the patient performed angiography” instead of “angiography was performed” and “the patient admitted” instead of “the patient was admitted”, the use of the word “prognosis” when “outcome” was meant.

Other problems in the audiovisual aids include not using the laser pointer, waving the laser pointer around too much, incorrect spacing, or lack of spacing on the slides, slides that contain too much information to be understood in the time available, square “frames” around figures, unnecessary 3-dimensional slides (these should only be used if the information absolutely requires 3-dimensional presentation), too many slides, moving too quickly from one slide to another.

Concerning the ease of understanding, some speakers did not speak into the microphone properly, or the aim of the study was not clearly announced or written.

Nevertheless, as noted above, there has been a definite improvement over the years, therefore this unique method, pioneered by Dr Takasaki of Tokyo Women’s Medical University seems to have made a contribution to the ability of young surgeons in Japan to communicate internationally. The next major area for progress is the handling of questions and discussion., especially with participants using non-standard or indistinct English

### (3) 議事録報告 平成20年度国際外科学会日本部会理事・幹事会議事録(要約)

#### 1. 事務報告:常任幹事・山本先生

平成20年3月31日現在、日本部会会員数359名(前年比20名減)

#### 2. 会計報告:財務委員長・炭山先生

「収支報告書」(別添参照)と企業寄付募集活の進捗状況が報告された。

監事の麻生先生より平成19年度の会計監査報告がされた。

#### 3. 2007年Hall of Fame 顕賞者

受賞者2名、白井将文先生、岡林秀一先生のプレートを作成し、シカゴ博物館に展示したとの報告がされた。

#### 4. 2007年 The Young Investigator Award受賞者

前田耕太郎先生、衛藤剛先生、田島秀治先生のプレートを作成し、シカゴ博物館に展示したとの報告がされた。

#### 5. 2008年度Hall of Fame :Japan Hall of Fame選考委員長・兼松先生

Hall of Fame選考委員会において今年度の推薦者はなしとの報告がされた。

#### 6. 審議事項

##### 1) 財務について

財務委員長・炭山先生より非常に厳しい状況であるとの説明がされた。会員および寄付について引き続き募集活動を継続する。

##### 2) Hall of Fameの選考規定について

選考規定の変更が必要。新しい規定を設け、選考方法を明確にする、各基盤学会雑誌に記事を載せるなど宣伝活動を行うという方向性で、選考委員長に一任することで承認された。

##### 3) 委員会再編について

来年の再編に向け、組織委員会で候補者をリストアップすることが承認された。

#### 7. 第36回世界総会: 2008年12月3日~6日@オーストリア、ウィーン

世界総会に参加可能であることを条件に、同時に行われる本部役員選挙に日本部会から候補者をリストアップする。

#### 8. 第55回日本部会総会会長・原口義座先生(災害医療センター)

平成21年7月に東京医科大学附属病院および京王プラザホテルにて開催予定

## (4) 会計報告

平成19年度 収支計算書 平成19年4月1日から平成20年3月31日(決算)まで

## 収入の部

科 目	予算額	決算額	差 異
会費収入	4,560,000	3,281,012	△ 1,278,988
企業寄付収入	3,800,000	1,750,000	△ 2,050,000
顕賞寄付収入	200,000	400,000	200,000
個人寄付収入	0	1,000,000	1,000,000
広告収入	600,000	355,000	△ 245,000
受取利息等	500	9,023	8,523
<b>小 計</b>	<b>9,160,500</b>	<b>6,795,035</b>	<b>△ 2,365,465</b>
前年度繰越金	8,915,954	8,915,954	0
<b>収入の部合計</b>	<b>18,076,454</b>	<b>15,710,989</b>	<b>△ 2,365,465</b>

## 支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異
1.日本部会運営費支出			
日本部会総会補助費支出	1,000,000	1,000,000	0
会議費支出	200,000	199,123	△ 877
慶弔費支出	50,000	0	△ 50,000
会員管理システム利用料&委託管理費支出	718,410	628,032	△ 90,378
交通費支出	80,000	17,340	△ 62,660
派遣スタッフ費支出	1,680,000	1,846,464	166,464
HP広報費支出	250,000	281,000	31,000
通信費支出	250,000	239,107	△ 10,893
印刷コピー費支出	300,000	211,988	△ 88,012
備品消耗品費支出	60,000	11,303	△ 48,697
支払手数料支出	30,000	27,024	△ 2,976
博物館維持費支出	1,000,000	1,000,000	0
博物館プレート費支出	200,000	225,195	25,195
業務委託費支出	0	30,000	30,000
会計顧問料支出	111,111	111,111	0
雑費支出	0	3,900	3,900
<b>小 計</b>	<b>5,929,521</b>	<b>5,831,587</b>	<b>△ 97,934</b>
2.米国本部会費送金支出			
入会金支出	32,000	24,000	△ 8,000
会費支出	3,222,120	2,450,276	△ 771,844
<b>小 計</b>	<b>3,254,120</b>	<b>2,474,276</b>	<b>△ 779,844</b>
<b>支出の部合計</b>	<b>9,183,641</b>	<b>8,305,863</b>	<b>△ 877,778</b>
当期収支差額	8,892,813	7,405,126	1,487,687

## 平成20年度 収支予算書 平成20年4月1日から平成21年3月31日(決算)まで

## 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	差 異
会費収入	3,500,000	3,281,012	218,988
企業寄付収入	1,500,000	1,750,000	△ 250,000
顕賞寄付収入	0	400,000	△ 400,000
個人寄付収入	0	1,000,000	△ 1,000,000
広告収入	300,000	355,000	△ 55,000
受取利息等	500	9,023	△ 8,523
<b>小 計</b>	<b>5,300,500</b>	<b>6,795,035</b>	<b>△ 1,494,535</b>
前年度繰越金	7,405,126	8,915,954	△ 1,510,828
<b>収入の部合計</b>	<b>12,705,626</b>	<b>15,710,989</b>	<b>△ 3,005,363</b>

## 支出の部

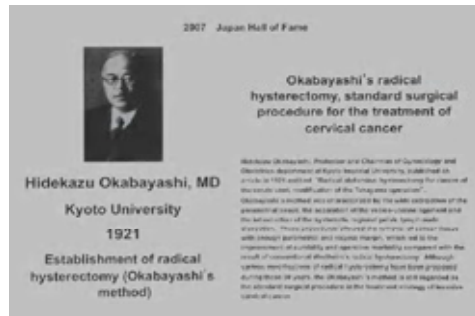
科 目	本年度予算額	前年度決算額	差 異
1.日本部会運営費支出			
日本部会総会補助費支出	500,000	1,000,000	△ 500,000
会議費支出	200,000	199,123	877
慶弔費支出	5,000	0	5,000
会員管理システム利用料&委託管理費支出	700,000	628,032	71,968
交通費支出	50,000	17,340	32,660
派遣スタッフ費支出	1,500,000	1,846,464	△ 346,464
HP広報費支出	300,000	281,000	19,000
通信費支出	250,000	239,107	10,893
印刷コピー費支出	250,000	211,988	38,012
備品消耗品費支出	30,000	11,303	18,697
支払手数料支出	20,000	27,024	△ 7,024
博物館維持費支出	1,000,000	1,000,000	0
博物館プレート費支出	200,000	225,195	△ 25,195
業務委託費支出	0	30,000	△ 30,000
会計顧問料支出	111,111	111,111	0
雑費支出	0	3,900	△ 3,900
<b>小 計</b>	<b>5,116,111</b>	<b>5,831,587</b>	<b>△ 715,476</b>
2.米国本部会費送金支出			0
入会金支出	20,000	24,000	△ 4,000
会費支出	2,500,000	2,450,276	49,724
<b>小 計</b>	<b>2,520,000</b>	<b>2,474,276</b>	<b>45,724</b>
<b>支出の部合計</b>	<b>7,636,111</b>	<b>8,305,863</b>	<b>△ 669,752</b>
次期繰越額	5,069,515	7,405,126	△ 2,335,611

## (5) "2007 Japan Hall of Fame" 顕彰者および 2008 The Young Investigator Award"受賞者

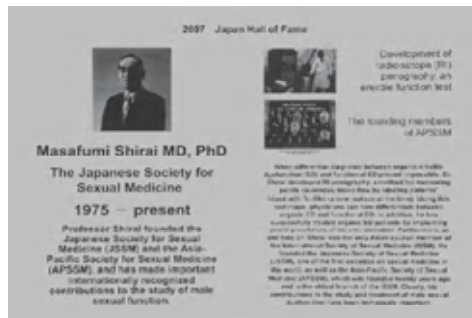
昨年度のJapan Hall of Fameおよび今年度のThe Young Investigator Awardは Japan Hall of Fame選考委員会委員長兼松隆之先生の承認を得て、次の先生方に決定し、シカゴ博物館の「日本外科殿堂」に顕彰されます。(順不同、敬称略)尚、Japan Hall of Fameにつきましては、今年度は該当者がいませんでした。

### 2007 Japan Hall of Fame

岡林秀一 (京都大学医学部婦人科学産科学教室)  
「子宮頸癌に対する広汎性子宮全摘術の確立」



白井将文 (東邦大学)  
「男性性機能障害」



### 2008 The Young Investigator Award

杉本真樹 (帝京大学ちば総合医療センター外科)

“Scarless transgastric cholecystectomy in natural orifice transluminal endoscopic surgery (NOTES)”

松岡弘芳 (杏林大学医学部外科)

“Impact of intraoperative radiotherapy on postoperative evacuation following ultra-low anterior resection”

岩谷さおり (獨協医科大学第1外科)

“Our experience of the portal vein malformation in children”

## (6) ICSスカラシップについて

岐阜大医学部腫瘍外科の富田弘之先生が本部の「ICSスカラシップ」を受賞されました。富田先生は今年6月よりアメリカ、ニューヨーク州のコロンビア大学に留学されています。留学を予定されている会員の方々はぜひこの制度にチャレンジされることをお勧めします。詳細は当日本部会Webサイトをご覧ください。ご応募お待ちしております。



## 2. 第55回国際外科学会日本部会総会のご案内

### 第55回国際外科学会日本部会開催にあたって

#### 国立病院機構災害医療センター外科 原口義座

既に第54回と立派な伝統を誇る国際外科学会日本部会を平成21年に担当させていただくこととなりました。

大変身に余る光栄と身の引き締まる思いでございます。

まだ準備中ではございますが、会期は平成21年7月3日(金)・4日(土)、開催場所は、新宿区の東京医科大学病院・京王プラザホテルとさせていただき予定を進めております。

3日午後から夕方に各種の会議/委員会・シンポジウム等を予定しております。

幅広く外科系の多分野からのご演題の発表をいただきたく存じます。

更にシンポジウム等の予定として、

- ①外科重症患者対応の最新として「外科とSurviving Sepsis Campaign・救命/集中治療」、
- ②迫りつつある「新型・鳥インフルエンザと外科医の役割」、
- ③「外科医と大災害時の医療」なども、今回のテーマに加えたいと考えております。

多くの先生方のご参加をお待ちしております。

なお、演題募集は平成21年3月頃の開始を予定しております。



### 3. 2007-2008 国際外科学会日本部会役員・各種委員会 (04/01/2007~03/31/2009)

\*印 2007-2008シカゴ本部役員 兼任

名誉会長	中山 恒明	(中山がん研究所) ※2005年6月逝去
会長	高崎 健	(東京女子医科大学名誉教授)
前会長	掛川 暉夫	(国際親善総合病院名誉院長)
監事	麻生 武志	(東京医科歯科大学名誉教授)
	*沖永 功太	(帝京大学医学部外科教授)
筆頭理事	北島 政樹	(国際医療福祉大学三田病院院長)
常任理事	跡見 裕	(杏林大学医学部第1外科教授)
	石井 延久	(東邦大学医学部泌尿器科教授)
	落合 和徳	(東京慈恵会医科大学産婦人科教授)
	*炭山 嘉伸	(東邦大学医学部第3外科教授)
	*平澤 博之	(千葉大学名誉教授)
	藤岡 知昭	(岩手医科大学泌尿器科教授)
	村井 勝	(国際親善総合病院院長)
	加藤 治文	(東京医科大学外科第一講座教授)
	原口 義座	(国立病院東京災害医療センター)
	上田 守三	(東邦大学医学部脳神経外科教授)
	山岸 久一	(京都府立医科大学 学長)
	兼松 隆之	(長崎大学医学部第2外科教授)
	亀岡 信悟	(東京女子医科大学第2外科教授)
	白水 和雄	(久留米大学医学部外科教授)
	砂川 正勝	(独協医科大学医学部第1外科教授)
常任幹事	山本 雅一	(東京女子医科大学消化器外科教授)
理事	落合 武徳	(三愛記念そが病院消化器病センター長)
	小林 展章	(愛媛大学医学部第1外科教授)
	坂本 純一	(名古屋大学大学院医学系研究科社会生命科学講座教授)
	田中 紀章	(岡山大学大学院医歯総合研究科消化器・腫瘍外科分野教授)
	土屋 了介	(国立がんセンター中央病院外科)
	畑瀬 哲郎	(公立八女総合病院)
	平田 公一	(札幌医科大学第1外科教授)
	平野 達雄	(センター・ビュー クリニック院長)
	益子 邦洋	(日本医科大学附属千葉北総病院救急医学部)
	杉山 徹	(岩手医科大産婦人科教授)
	前田耕太郎	(藤田保健衛生大外科教授)
	有井 滋樹	(東京医科歯科大学分子外科治療学教授)
	安田 秀喜	(帝京大学ちば総合医療センター外科教授)
	竹下 公矢	(社会福祉慈生会 慈生会病院院長)
幹事	安藤 暢敏	(東京歯科大学市川病院外科教授)
	苛原 稔	(徳島大学医学部産婦人科教授)
	緒方 裕	(久留米大学医学部第1外科助教授)
	桜木 範明	(北海道大学大学院医学研究科生殖・発達医学教授)

	篠沢洋太郎	(東北大学大学院医学系研究科・医学部麻酔救急医学教授)
	高木 正剛	(ヨゼフクリニック院長)
	高山 忠利	(日本大学医学部消化器外科教授)
	丹治 進	(岩手医科大学泌尿器科)
	寺本 龍生	(東邦大学医学部第一外科教授)
	松本 純夫	(国立病院機構東京医療センター)
	丸山 一男	(三重大学医学部麻酔科教授)
	山口 明夫	(福井医科大学第1外科教授)
	青柳慶史朗	(久留米大学医学部外科)
	大坪 毅人	(聖マリアンナ医科大学消化器外科教授)
	斉田 芳久	(東邦大学医療センター大橋病院第3外科講師)
	山崎 将人	(帝京大学ちば総合医療センター外科)
事務局幹事	清水 公一	(新板橋クリニック院長)
	小寺 由人	(東京女子医科大学消化器外科助手)
顧問	阿部 令彦	(聖路加国際病院顧問)
	遠藤 光夫	(東京医科歯科大学医学部名誉教授)
	田中 隆	(日本大学医学部名誉教授)
	鍋谷 欣市	(杏林大学医学部名誉教授)
	J. P. Barron	(東京医科大学国際医療情報センター教授)
	平澤 泰介	(明治国際医療大学大学院教授)
第53回総会会長	山岸 久一	(京都府立医科大学学長)
第53回総会幹事	大坪 英吾	(京都府立医科大学外科教授)
第53回総会幹事	岡本 和真	(京都府立医科大学外科)
第54回総会会長	砂川 正勝	(獨協医科大学第1外科教授)
第54回総会幹事	佐々木欣郎	(獨協医科大学第1外科)

〈役員辞退〉

理事	豊坂 昭弘	(宝塚第一病院院長)
幹事	角田 司	(川崎医科大学消化器外科教授)

〈ICS退会役員〉

常任理事	高田 忠敬	*(帝京大学医学部外科教授)
常任理事	笹子三津留	(国立がんセンター)
理事	真辺 忠夫	(名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部病態外科学教授)
理事	阿部 宗昭	(大阪医科大学医学部整形外科教授)
幹事	入山 圭二	(桑名市民病院院長)
理事	岩井 武尚	(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医学部血流・血管応用外科学教授)
理事	幕内 雅敏	(日本赤十字社医療センター院長)

1) 組織委員会

委員長	落合 和徳	常任理事
委員	安田 秀喜	理事
委員	有井 茂樹	理事
委員	平田 公一	理事
委員	田中 紀章	理事

2) 財務委員会

委員長	炭山 嘉伸	常任理事
委員	白水 和雄	常任理事
委員	亀岡 信吾	常任理事
委員	岩井 武尚	理事
委員	齐田 芳久	幹事

3) 規約委員会

委員長	砂川 正勝	常任理事
委員	上田 守三	常任理事
委員	竹下 公矢	理事
委員	安藤 暢敏	幹事
委員	大坪 毅人	幹事

4) Japan Hall of Fame 選考委員会

委員長	兼松 隆之	常任理事	
委員	跡見 裕	常任理事	(消化器外科)
委員	上田 守三	常任理事	(脳神経外科)
委員	石井 延久	常任理事	(泌尿器科)
委員	麻生 武志	監事	(産婦人科)
委員	加藤 治文	常任理事	(呼吸器外科)
委員	落合 和徳	常任理事	(産婦人科)
委員	平澤 博之	常任理事	(救急外科)
委員	岩井 武尚	理事	(心臓血管外科)
委員	落合 武徳	理事	(移植外科)
委員	丸山 一男	幹事	(麻酔科)

5) 総合検討委員会

委員長	高崎 健	会長
委員	北島 政樹	筆頭理事
委員	加藤 治文	常任理事
委員	落合 武徳	常任理事
委員	村井 勝	常任理事
委員	石井 延久	常任理事
委員	藤岡 知昭	常任理事
委員	原口 義座	常任理事
委員	土屋 了介	理事
委員	武田 仁良	

## (4) 国際外科学会日本部会定款

### (目的)

#### 第1条

本会は国際外科学会の日本部会であって、外科医学の進歩発展を図り、医師の生涯教育を行うことを主旨とし、国際団体を通じて世界の各国と知識の交流を図ることを目的とする。

### (名称)

#### 第2条

本会は国際外科学会日本部会(以下、本会)と称する。

### (会員)

#### 第3条

会員は、正会員(Fellow登録あるものは、Fellow会員、Fellow登録ないものは非Fellow会員)、シカゴ本部名誉会員、日本名誉会員、日本特別会員、及び、賛助会員からなる。賛助会員はその代表者の名前で登録する。

#### 第4条

正会員及び賛助会員として入会を希望する者は、別に定める細則に従い、本会規定の申込書に所定事項を記載し本会事務局に申込む。

#### 第5条

本会のために特に功労のあったものが原則として70歳となったとき、日本名誉会員、日本特別会員となることができる。日本名誉会員、日本特別会員は会長が推薦し、総会の承認を受ける。

#### 第6条

退会者は必ずその旨を本会事務局に届け出るものとする。

### (役員)

#### 第7条 本会は次の役員を置く。

会長:1名 理事:若干名 幹事:若干名 監事:若干名 顧問:若干名  
総会会長:1名

#### 第8条

会長は理事会で推挙され、総会において承認を受ける。理事、監事、幹事は会長が正会員の中から委嘱し、その任期は2年で再任を妨げない。役員は任期は、4月1日から2年後の3月31日までとする。

会長は理事の中から若干名の常任理事を指名する。総会会長は正会員の中から理事会が推薦し、総会の承認を受ける。任期は1年で再任を認めない。原則として70歳以上の者は役職につかない。但し会長を除く。

#### 第9条

会長及び理事、監事、幹事、総会会長は総べて奉仕とする。

#### 第10条

会長は本会を代表し、これを総括する。会長に支障がある場合は、常任理事が互選で代行者を選び、これを代行する。

#### 第11条

理事は会長を補佐し、本会の一切の役務を処理する。幹事は理事を補佐する。

#### 第12条

監事は本会の業務を監査する。

#### 第13条

総会会長は学術集会を主催する。

(国際外科学会Fellow、国際外科学会名誉会員)

#### 第14条

国際学会Fellowは本会の正会員であり、よって登録は第4条に準ずる。国際外科学会名誉会員は「シカゴ本部名誉会員」と称し、会長が推薦し本部に申請し決定を受ける。

### (会費)

#### 第15条

会費は別に定める細則により年会費を納入する。

### (会計年度)

#### 第16条

本会の会計年度は4月1日より翌年の3月31日までとする。事務局は監事による監査手続きを終了し、理事会及び総会に会計報告をする。

(IF15条は削除)

### (日本部会総会)

#### 第17条

本会総会は下記の規定による。

### (総会規定)

第1項 毎年1回本会総会を開催する。

第2項 本会総会構成は会員をもってする。

第3項 学術総会の発表は会員に限る。但し、会員以外の者でも総会会長の許可を得れば学術総会において発表することができる。  
(国際総会及び外国部会への出席)

#### 第18条

国際総会、連合部会及びその他の各国の部会に出席しようとする本会の会員は、主催者側が指定する期日迄に抄録を添えて直接申し込むこととする。会長、理事もしくは幹事の外国部会への出席については、本会より補助することができる。

(定款の変更)

#### 第19条

本定款の変更を要することがあれば、理事会に於いて決定し、本会総会に於いて承認を受ける

(事務局)

#### 第20条

本会事務局は東京女子医科大学、消化器病センター内に置く。

直通電話/Fax: (03) 3358-1424

代表電話: (03) 3353-8111 (内線: 25229)

e-mail: ics-japan@info.email.ne.jp

http://www.ics-japan.org/

細則1 1) Fellow会員の会費は、学会誌(Journal)の受取方法により以下から会員が選ぶことができる。

①電子ファイルのみで希望する会員の場合、15,000円(本部との連絡可能なe-mail address登録必要。事務局経由で申込む。)

②電子ファイル&郵送共に希望、または郵送のみ希望の場合、20,000円。

役員も、①か②のいずれかを選択する。

2) 非Fellow会員は年会費5,000円を納める。

いずれも途中退会するものの会費は返却しない。2年以上会費滞納の会員は退会とするが、その2年間の会費を完納しなければならない。

2 賛助会員は年会費10万円(1口)を納める。賛助会員はその特典として、本会のホームページや「日本部会ニュース」に広告掲載の申込みができる。但し、2年以上会費滞納の場合は退会とみなす。また途中退会する者の会費は返却しない。

3 正会員及び賛助会員の申込みは、会長(Section President)及び常任幹事(Section Secretary)の承認を受ける。正会員については事務局が本部に登録申請を行う。但し、日本国籍を有する者に限る。また初年度のみシカゴ本部より請求があるcertificate発行代金@8,000円(送金手数料込み)を年会費に加えて会員本人が負担する。

4 日本名誉会員、日本特別会員の日本部会の年会費は免除する。しかし、国際外科学会Fellow資格保持を希望する場合は、本部送金の必要があるため、Fellow代金として、10,000円を納入する。

付則 本定款は昭和54年2月10日より実施する。

昭和63年9月24日より一部改正。

平成元年9月22日より一部改正。

平成8年1月1日より一部改正。

平成11年11月6日より一部改正。

平成12年11月11日より一部改正。

平成17年5月28日より一部改正。

平成18年6月4日より一部改正。

平成19年6月11日より一部改正。

#### 申し合わせ事項

1 日本名誉会員は総会会長及びシカゴ本部役員の実験者で長期に亘り会に功労があり、且つ原則として、70歳になった時に、会長が推薦する。

2 日本特別会員は役員として功労があり、原則として70歳になった時、会長が推薦する。

3 顧問は、シカゴ本部名誉会員、日本名誉会員、日本特別会員の中から、特に日本部会の運営に指導的立場をいただく方を会長が推薦し、常任理事会、理事・幹事会に出席していただく。ただし議決権はない。

4 会議の構成。

委員会:委員長、委員、会長(議決権なし)、顧問(議決権なし)

常任理事会:会長、筆頭理事、常任理事、

常任幹事、監事(議決権なし)顧問(議決権なし)

理事・幹事会:会長、筆頭理事、常任理事、理事、常任幹事、幹事、監事(議決権なし)、顧問(議決権なし)

本申し合わせ事項は、

平成5年1月1日より実施する。

平成11年11月6日より一部改正。

平成12年11月11日より一部改正。

平成18年6月4日より一部改正。

## 5. 事務局からのお知らせ

### (1) 会員情報の更新について

人事異動による所属、役職、またはお引越などによる住所変更、年会費お支払い方法の変更など生じた場合には事務局までご連絡下さい。Fellow会員で、電子メールでのジャーナル配信を希望されている場合は必ずEメールアドレスをお知らせ下さい。

### (1) 本年度会費の納入について

まだお済みでない方はなるべく年内にお支払下さいますようお願い申し上げます。

## シカゴ本部関連

---

### 1. 第36回世界総会

XXXVI Biennial World Congress of the International College of Surgeons

日時:2008年12月3日～6日

会場:ウィーン(オーストリア) Hilton Vienna

世界総会の様子はHPにてご紹介させていただく予定です。

### 2. 北京(中国)にてICS World Congress, Asia-Pacific Joint Congress 開催決定

日程:2009年11月13日～16日

テーマ: "Minimally Invasive Surgery: State of the Art"

詳細は決定次第ホームページにてご案内させていただきます。

### 3. 2007- 2008 国際外科学会 シカゴ本部役員

#### International Executive Council Members

World President	Dr. Fidel Ruiz-Healy, Mexico
President Elect	Prof. Christopher Chen, Singapore
Immediate Past President	Prof. Nadey Hakim, England
First Vice President	Prof. Narendra Pandya, India
Corporate Secretary	Dr. Said Dae, USA
Treasurer	Dr. Carmencita Gotauco, Philippines

### **Six Federation Secretaries**

Africa	Prof. Adel Ramzy, Egypt
Asia	Prof. Ken Takasaki, Japan
Europe	Prof. Rocco Maruotti, Italy
Latin America	Dr. Manuel Huaman, Peru
North America	Dr. Enrico Nicolo, USA
Pacific	Dr. Nopadol Wora-Urai, Thailand

### **4 Additional Members (Term 2004-2008)**

Dr. H. S. Bhanushali, India  
Dr. Phyllis Bleck, USA  
Prof. Dirk Loose, Germany  
Dr. Vithya Vanathophas, Thailand

### **3 Additional Members (Term 2007-2010)**

Prof. Felipe de la Cruz Vigo, Spain  
Prof. Jose M. Alvear, Ecuador  
Dr. Adib Sabbagh, USA

### **16 Vice Presidents**

Dr. Jose Bachicha, USA  
Dr. Clement Chan, Hong-Kong  
Dr. Eddie Chang, Singapore  
Prof. Antonio Gentil Martins, Portugal  
Prof. Paul Hahnloser, Switzerland  
Prof. Yik-Hong Ho, Australia  
Dr. Paulo Kassab, Brazil  
Prof. Peter Lim, Singapore  
Dr. Vijay Mittal, USA  
Dr. N. K. Pandey, India  
Dr. Arno Roscher, USA  
Dr. Sibua Saha, USA  
Dr. Nicasio Salang, Philippines  
Dr. Larry Sasaki, USA  
Dr. Preecha Siritongtaworn, Thailand  
Dr. Wickii Vigneswaran, USA

### **30 Additional Governors**

Dr. Jose D. Araujo, Portugal  
Dr. Roberto Bonelli, Argentina  
Dr. Edouard Bontemps, Haiti  
Dr. Italo Braghetto, Chile



Dr. Gabriel Bucio, Mexico  
Dr. Maxime Coles, USA  
Dr. N. Dorairajan, India  
Dr. George Fayad, England  
Dr. John Fournier, USA  
Prof. Alberto del Genio, Italy  
Dr. Luis Hernandez-Ortega, Mexico  
Prof. Refaat R. Kamel, Jr., Egypt  
Dr. Ming-Chien Kao, Taiwan  
Prof. Jacques Lambert, Canada  
Dr. Ernest Lim, Singapore  
Dr. Jerry Mitchell, USA  
Dr. Marco Montorsi, Italy  
Dr. Augustine Obiora, Nigeria  
Dr. Hugo Pardo, Argentina  
Dr. Petar Petricevic, Serbia & Mont  
Dr. Roque Ramirez, USA  
Dr. Dinesh Ranjan, USA  
Dr. Victor Ruiz-Castro, Costa Rica  
Dr. Leo Stam, Netherlands  
Prof. Tetsuya Tamaki, Japan  
Dr. Joel Teplinsky, USA  
Dr. Gia Tomadze, Georgia  
Prof. Helge Wenzl, Germany  
Dr. Rudi Yuwana, Indonesia

**シカゴ本部各種委員会**

Finance, Auditing and Budget

炭山 嘉伸(東邦大学医学部外科学第3講座教授)

Grievance, Judiciary and Ethical Relations

平澤 博之(千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学教授)

CME, Surgical Training by Surgical Teams

冲永 功太(帝京大学医学部外科教授)

Research and Scholarship

玉置 哲也(和歌山労災病院院長)

I C S  
Japan Section



〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1  
東京女子医科大学消化器病センター  
代表 Tel(03)3353-8111 ext.25229  
E-mail: ics-japan@info.email.ne.jp  
直通Tel・Fax(03)3358-1424